

**阿蘇くまもと空港の創造的復興に向けて  
～コンセッション方式の導入に関する提言～**

**平成29年6月**

**熊本経済同友会**

阿蘇くまもと空港は、九州の中央に位置し、熊本と国内外をつなぐ空の玄関口として、地域経済の発展に欠かせない重要な交通インフラである。

平成28年の熊本地震で多大な被害を受けた阿蘇くまもと空港の機能強化に向けては、昨年6月に経済団体として緊急提言を行い、九州の広域防災拠点としての機能の強化や国内線・国際線を一体化したターミナルビルの建設、九州中央に位置する国際空港としての整備などを求めた。

熊本県は、阿蘇くまもと空港を、熊本地震からの創造的復興のシンボルとし、コンセッション方式の導入による国内線・国際線ターミナルビルの一体的整備及び耐震化を目指す方針を表明された。

これを受け、国においては、コンセッション方式の導入に向けた手続きを開始され、また建替え期間中に使用する国内線の別棟ビルの設計に着手されるなど、新ターミナルビルの一日も早い完成を目指した取組みが進められている。

本会では、今年4月に阿蘇くまもと空港コンセッション委員会を立ち上げ、熊本地震からの創造的復興、地域の中長期的な振興・発展に資する観点から、企画・提言を行うこととしており、勉強会の開催、コンセッション方式の導入に係る情報の把握・共有を図っているところである。

熊本県においては、阿蘇くまもと空港の創造的復興を県全体の力強い復興の歩みへと発展させるため、以下の事項に留意しつつ、国との協議を進められるよう、提言する。

- 1、地域の意向を反映する仕組み
- 2、地元経済の活性化に資する運営権者の選定
- 3、国内線別棟ビル運用期間中の利便性確保への配慮

## 1、地域の意向を反映する仕組み

- 阿蘇くまもと空港周辺地域は、熊本地震からの創造的復興のシンボルとして、県民や地元と一緒に復興・発展させていく必要があり、また、九州の広域防災拠点空港としての活用や機能強化は、行政などと共に推進していく必要がある。そのため、自治体出資等による関与や地元が設置する空港運営等に関する協議会への参画など、地域の意向を反映する仕組みにすること。

## 2、地元経済の活性化に資する運営権者の選定

- 運営権者の選定においては、①～③の地元経済の活性化に資する積極的な取組みについての提案を重視し、審査においても配慮されるようにすること。
  - ① 航空ネットワークの拡大による交流人口の増大、新たな産業や雇用の創出などを掲げた熊本県の「大空港構想 Next Stage」（熊本都市圏東部地域グランドデザイン）の実現への協力
  - ② 市街地からの定時性の向上につながる空港へのアクセスや、インバウンド旅客の利便性・観光回遊性が高まるような広域的交通アクセスの改善への積極的な協力
  - ③ 県産品の販売促進・情報発信、地元企業や県産木材等地域資源の活用など

## 3、国内線別棟ビル運用期間中の利便性確保への配慮

- 新ターミナルビルの建設期間中に使用する国内線別棟ビルにおいても、旅客のスムーズな乗降はもとより、飲食店・売店などの十分な面積を確保するなど、利用者の利便性が確保されるようにすること。

平成29年6月

熊本経済同友会 代表幹事 甲斐 隆博

代表幹事 本松 賢

(阿蘇くまもと空港コンセッション委員会委員長)